

### 第3回 沼津港振興基本計画策定委員会 議事概要

---

日 時：平成27年2月17日（火）午前10時00分～午後12時00分

場 所：プラサ ヴェルテ 402 会議室

出席者：

静岡県立大学学長 木苗 直秀（委員長）

横浜国立大学都市イノベーション研究院教授 高見沢 実

東海大学海洋学部環境社会学科教授 東 恵子

静岡県交通基盤部港湾局長 西園 勝秀（副知事代理）

沼津市副市長 井原 三千雄

※常葉大学 大久保教授は欠席

事務局：静岡県交通基盤部港湾局港湾企画課

配布資料：

- ・ 次第
  - ・ 委員名簿
  - ・ 座席表
  - ・ 策定委員会設置要綱
  - ・ 沼津港新ビジョンの策定
  - ・ 第3回沼津港振興基本計画策定委員会 説明資料
  - ・ 前回までの資料
- 

#### ■第2回沼津港の将来を考える有識者会議の報告について（資料「沼津港新ビジョンの策定」）

（木苗）

- ・ 沼津港のいい部分（魅力）を強調し、リピーターに繋げる。
- ・ 憩いの場、学びの場、思い出作りの場を提供し、リピーターを増やす。
- ・ 現在、静岡空港でも海外の方々の誘致を試験的におこなっているため、新しい発想で、世界と沼津港をつなげることも必要かもしれない。
- ・ 沼津港へ来る人たちに物語をイメージしてもらう工夫が必要。そのような魅力の情報発信をどのようにするか。沼津港の魅力の中身をもっと整理する必要がある。
- ・ 体験を通して足跡をつくり、将来思い出してまた来るといったリピーターの作り方もある。

（井原）

- ・ 観光客の学習、体験の場を新しく加えていき、質を高める必要がある。

(高見沢)

- ・ 組織とは皆で同じ方向に向かって作っていくもの。港の持っている公共性を大切に、多くの方が賛同する組織作りが望ましい。
- ・ 観光に特化した組織作りになるのではと危惧している。
- ・ 地域の方々（住んでおられる方、働いておられる方）が入りやすい組織作りを目指すべきである。
- ・ 横浜港等の歴史がある確立された港と違い、沼津港の歴史は浅い。何を頼りにこれからの沼津港を作り上げていくかの議論を進めることが必要であり、テーマパークのようなものに飛びつくことは避けて欲しい。

(東)

- ・ 沼津港の魅力、原点は漁業である。
- ・ 人材育成、特に漁業に従事する方の人材育成が今後の課題であると思う。
- ・ 沼津港の魅力としての「食文化」「歴史」「景観」は何であるのかをきちんと議論し、まとめていく必要がある。
- ・ 長期ビジョンも大事であるが、現在の沼津港の状況（夜に人が少ない等）をみると短期的にやれることを整理することも大事だと感じた。
- ・ 沼津港をエリアマネジメントするときのエリアの範囲の議論をするべきである。

■具体的方策の検討に向けた整理について（資料「第3回沼津港振興基本計画策定委員会」）

(木苗)

- ・ 深海魚に頼りすぎるのではなく、沼津港駿河湾と沼津港、深海魚と地場商品のように組み合わせる相乗効果を狙うとよい。
- ・ 一視点ではなく全体として、平面ではなく空間として港を捉える必要がある。

(高見沢)

- ・ 港の風景は、タンカーやタグボート等のそれぞれの船の役割が一体となって生まれるものであり、それを感じるのが港である。土地利用のアウトプットだけでなく、その根拠も記載したほうが良い。
- ・ エリアを千本松原、狩野川、市街地まで広げて考える必要があるので、沼津市と一緒に考えていく必要がある。
- ・ 港口公園周辺のエリアを人々の交流の拠点とすることを検討いただきたい。
- ・ 食で人が来ることで、そちらに施策が流れがちだが、海から見る風景と港の一体感が沼津港のあり方であってほしい。
- ・ 資料として、万人が共感できるように表現を工夫する必要がある。

(東)

- ・ P.15「場の力」が弱いとは何が弱いのかを明確に示す必要がある。
- ・ どのように沼津港の魅力を高めるのかを議論する上で、エリアを分断するのではなくどのように連続性を持たせるかを考える必要がある。整備の話が前面に出ていることに危惧している。
- ・ 資料として港だけの空間利用を表現しているように見える。大事な連携が抜けている。

(井原)

- ・ 沼津港と狩野川の船便を上手く使えればと思う。
- ・ 千本松原、狩野川、市街地を含めた計画づくりが必要だと感じた。

#### ■次回の策定委員会について

(事務局)

- ・ エリアマネジメントのエリアをより深めた検討をしていく必要がある。
- ・ 次回資料については、計画最終案として冊子を作成する。
- ・ 組織体制については、沼津市と協議をおこなって、今後どのように進めていくかを検討する。